

改革断行
自民党

西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛

<http://masatake.jp/>



田中まさたけ

検索

市政・市議会報告



「子育てするなら西宮」

「子育てするなら西宮」という標語を掲げる西宮。

私は、現役の子育て世代として現場で生の声を聴き、

市民との対話によって、数々の子育て・教育関連の政策を提言することができました。

子育て・教育環境は、私たち大人の手でつくっていくしかありません。

この報告書を手にした機会に、子育ての現場に関する情報やご意見を寄せていただければ幸いです。

政策のゆくえ

文教住宅都市の教育環境

粘り強い政策提言の結果、学校施設整備の優先度が示されました。

平成23年12月議会において、児童が急増している安井小学校を例に挙げ、単に仮設校舎を設置するのではなく、学校の建て替えも含めた施設マネジメントが必要であると提言していました。そして、本年2月に、①建築年数劣化度、②教室不足、③運動場不足、④建築形式の課題（開放廊下率）の観点から、建替えの優先順位の考え方と増改築される学校が示されました。

新年度から香櫨園小学校と西宮養護学校、平成29年度から春風小、31年度から安井小、33年度から瓦木中で、増改築事業が始まる内容になっています。事業費は7年で200億円以上を要します。また、安井小学校は、校地面積が小さい上にJRの線路に面しているため、建替えには多くの課題を抱えていることも、調査において判明しま

した。他にも、老朽化等施設上の課題を抱える学校も多数存在していることから、**地方創生を掲げる国と連携して財源を確保し、事業のペースアップを図る必要があります。**

また、施設のみならず、中身の充実も重要です。**学力テストを活用した個々の基礎学力向上の取り組みや、学級崩壊・いじめの問題への早期対応が可能な体制（人員の確保）の構築など教育環境に関する政策も提言しています。**これらの提言を実現するためには、**学校ごとの取り組みや状況を積極的に情報開示するなど教育委員会や学校の透明性の向上が不可欠です。**

これからも、次世代を担う「人」を育成する文教住宅都市を目指して、教育環境の向上に取り組みます。

子育て支援

子育て支援政策は、子どもの「育ち」の観点からの環境整備と少子化を食い止める観点からの検証が必要です。

■西宮市子ども・子育て支援事業計画

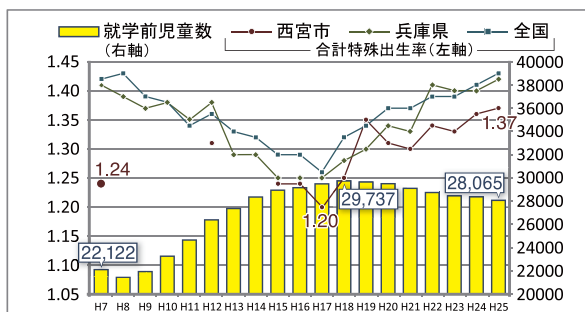
国の子ども子育て支援新制度の導入に伴い、西宮市子ども子育て支援事業計画が策定されました。また、4月から公立幼稚園と一部の私立幼稚園の保育料が、国の制度改正に合わせて所得に応じた保育料に変わります。計画では、保育需要の増大に対応するために、5年間で、0～2歳児の保育需要率を22.8%から30%に増やす内容になっています。他にも、学童保育の受入れ人数を1.3倍、幼稚園における預かり保育の受入れを1.8倍に増やすなど、意欲的な計画になっています。しかし一方で、必要財源が全く示されておらず、対応する民間事業者や人員、場所の確保も含めて、実現可能性は不透明なものとなっています。また、量の確保は具体的であるものの、教育・保育の質の向上については、数値目標もなく、具体性に欠けたものとなっています。子どもの育ちに主眼を置き、単に子どもを預かるだけではなく、心と体の健全育成の基礎を身に着けることができる環境を具体的に整備すべきです。

■少子化対策の検証が必要です

グラフの通り、西宮の合計特殊出生率は、近年増加しているものの、全国や県の平均よりも低くなっています。そして、就学前児童数も徐々に減少しています。子育て世代が西宮で子育てをしたいと感じれば、この数値ももっと向上するはずですが、待機児童対策をはじめ、現在の子育て支援政策が、少子化を食い止めることに繋がるのか、税金の使い道を検証する必要があります。

少子化はあらゆる政策課題をもたらします。国任せにするのではなく、未来の西宮のために、市は最優先で少子化を食い止める政策を推進すべきなのです。

■就学前児童数と合計特殊出生率の推移



スポーツ推進

子どもの健全育成のみならず、成人の健康増進、高齢者の介護予防など、スポーツを通じた活力ある文教住宅都市を目指すべきです。

■スポーツ推進の体制が徐々に確立

西宮には、施設環境・人材ともに豊富なスポーツ資源があります。しかし、市のスポーツ政策に、明確なビジョンや目標がないことを平成20年3月議会において指摘し、まずは計画を策定すべきと提言していました。そして、国の法律改正もあり、平成26年3月に、ようやくスポーツ推進計画が策定されました。

また、民間活力を用いてスポーツによるまちづくりを進めるために、異競技のトップスポーツ選手や団体の参画により、「アスレチック・リエゾン・西宮」という市外部の組織も発足しました。

■目標の明確化と予算の確保が課題

- ・子どもの健全育成と体力向上
- ・成人の健康増進と高齢者の介護予防
- ・障がい者の社会参加・自立支援
- ・スポーツを通じた地域コミュニティの活性化

などについて、10年先を見据えた事業目標を掲げるべきです。その上で、施設整備や事業に必要な予算を確保すべきなのです。具体的には、競技力向上のための練習場所の確保（学校グラウンドなど既存施設の夜間活用）、スポーツクラブ21に対する支援などについて提言しています。スポーツを通じて活力ある文教住宅都市をつくるべく取り組みます。

子どもの居場所づくり

～次世代を担う「人」を育成する文教住宅都市を目指して～

国政との連携の重要性を実感。市は今こそ、子どもが運動や学習、様々な体験ができる環境を計画的に整備するべきです。

子育て・教育環境の向上は、幼稚園や保育所、学校だけに求められるものではありません。子どもを対象にした事件が全国で発生している昨今、また、デジタルゲームが普及している中で、子どもたちが放課後や休日に安全に過ごせる居場所づくりの重要性が、改めて見直されています。私は、以下の課題について、重点的に取り組んでいます。



■放課後子ども教室と学童保育の充実

平成22年12月議会で放課後子ども教室の普及について政策提言して以来、現場で大学生とともに携わってきました。現在はボランティア中心の事業となっており、安全管理員や学習アドバイザーの確保が課題となっています。昨年7月に国から新たな方針(通知)が示され、私が主張していた行動計画の策定や運営委員会の設置がそこに盛り込まれました。市も新年度から、モデル校を選定し、「新放課後プラン」を実施することを明らかにしました。提言の実現に向けて、一歩前進です。

また、学童保育(留守家庭児童育成センター)については、待機児童の解消に重点が置かれるなか、

育成センターの老朽化対策の必要性を提言し、平成26年度に安井育成センターの再整備も実現しています。また、4年生の夏休み等長期休暇中の受け入れについても、平成22年12月議会で提言していました。そして、国が進める子ども・子育て支援新制度の導入により、市でも、長期休業中の高学年の受け入れ体制を整備する方針となり、新年度からモデル実施されます。

これらの政策は、保護者の皆さんや地域の方とともに取り組んできました。みんなで行動すれば、政策実現は可能なのです。



■公園の適正管理

公園遊具の老朽化は、子どもたちの命に係わる重要課題であり、維持管理に重点を置いて整備すべきであると、初当選直後から提言してきました。そして、公園遊具のアセットマネジメントの導入を提言し、順次老朽遊具が取り換えられています。また、子どもたちが球技遊びなど存分に体を動かせる公園環境の整備にも取り組んでいます。今後は公園への防犯カメラの設置も検討が必要です。

●縦割りの解消でもっと効率的に子育て環境の向上を！

放課後子ども教室、学童保育、公園、児童館など子育て環境の整備は、まだまだ縦割りがつ場当たりのに進められているのが現状です。市役所の縦割りを乗り越え、計画を策定して子どもの居場所づくりを計画的に進めるよう提言しています。これからも、現場主義で取り組んでまいります。

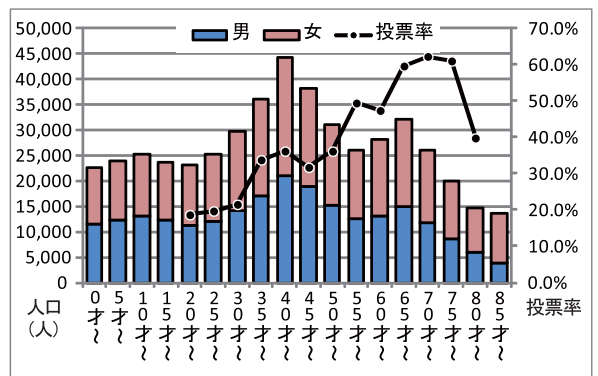
未来に誇れる西宮をつくるのは、私たち大人の責任です。

私たちが現在享受しているものは、先代が何十年もかけて築いてきたものです。ですので、自分の子供や孫、未来に誇れる西宮をつくることは、私たち大人の責任だと思っています。12年前の初当選以来、日頃から広く市民の皆さんに市政の現状を知ってもらい、ご意見を頂くために、この報告書を発行してきました。また、私は現在、中学生、小学生、幼稚園児の子育てに携わっています。ですので、より身近で実感を伴ったご意見を聞くことができ、子育て・教育環境関連の政策を提言してきました。私は、そうしたご意見や情報を下さった皆さんと共に、私たちの住むまちをつくっていると思っています。

グラフの通り、現在の市内の年齢別人口は、30代、40代の子育て世代が非常に多くなっています。しかし、投票率は30%台と、3人に1人しか投票に行っていない状況です。西宮では、市議会議員1人当たり、年間約1300万円の

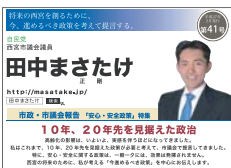
経費が掛かっています。あなたの代わりに税金で仕事をする議員をまずは自分で選び、時間の許す限り、選んだ議員の活動に目を向けてみてください。そうした一人一人の地道な行動が、私たちの生活を、これからの社会を創ると私は信じています。「市議会議員なんて誰がやっても同じ」と諦めないでください。

■西宮市の年齢別人口と投票率



※投票率は、前回の市議会議員選挙の投票率 (37.15%) に近かった平均的な投票区を選び出し、市が公表もの。

約束のかたち：「市政・市議会報告」の発行の継続～



○第41号 「10年、20年先を見据えた政治」

高齢化が本格化するなか、10年20年先を見据えた政治が必要なのです。

- ・掲載内容：中央病院の経営改革/医療・交通・防災・防犯政策/地域包括ケアなど



○第40号 「市議会の存在意義とは」

西宮市議会は今後も中身の改革を重ね、存在意義を示さなければなりません。

- ・掲載内容：議会経費/議員定数削減/政務活動費の透明性の向上/議員提案条例など

発行責任者
田中正剛 たなか まさたけ
昭和50年7月生まれ/大阪府立四條畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市会議事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選 (27歳)
■政党:自由民主党 ■現在の担当常任委員会:建設常任委員会 ■市議会での主な役職:建設常任委員会副委員長(1期2年目)、厚生常任委員会委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)、フレンテ問題特別委員会委員長(2期3・4年目)、病院問題特別委員会委員長(3期1・2年目)、阪神水道企業団監査委員(3期3年目)、副議長(3期4年目)

国との連携。未来に誇れる西宮をつくるために。

私は、これからの西宮を創るためには、政治の活性化が必要であるとの思いをもって行動してきました。そして、これまで提言してきた政策の実現の背景の多くに、国の後押しがあり、国政との連携の必要性を実感してきました。だからこそ、政策を実現するために、自民党に所属して活動することを決断しました。初志を忘れず、これからも行動し続けます。



私の市議会での発言はWebサイトでご確認ください。